

高麗大学校 世宗キャンパス（韓国）

この学期は一人でプレゼンすることが多かったのですが、International public administrationの授業でペアプレゼンの難しさを実感しました。自分たちは感染症とWHOのテーマで教授が提示した5つの論文の要約と、現状のリサーチと解決策について発表しました。

まず韓国ではどちらかがpptを作ってどちらかが発表するというスタイルが主流のようでしたが、それは微妙だったので半々にしてもらいました。最大の難関は教授が選んだペアとのコミュニケーションでした。これは英語の授業なのでpptも発表も英語ですが、相手にとって英語での発表、コミュニケーションが相当大変なようで、自分がリードして進めていくことにしました。しかし、準備過程において、ペアが韓国語で専門用語を言っても自分は分からないし、pptもペアは一旦韓国語で作っていたので共同作業の時に何が書いてあるか分からないし、といった状況に陥りました。

それでも、二人で内容を合わせて論理的で筋の通ったプレゼンを作らなければならないので、どんな要約を作るか、どのような構成にするかなど話し合うことはもちろん、相手のpptに何が書いてあるか1つずつ丁寧に聞きました。韓国語で話してくるので、分からなかった所は即聞き返して、頑張って英語で話してもらうか翻訳を使うかして、着実に作業を進めていきました。他のペアよりも何倍も何十倍も時間が掛かったと思いますが、普段のプレゼンよりもお互いにプレゼン内容を理解出来て、良い経験になったと思います。

ド・モントフォート大学（イギリス）

最後のプレゼンを終えて、6月の頭にはDMUの授業は全て終わりました。3人組のプレゼンで、自分が担当した部分はおよそ5分くらいだったのですが、なかなか暗記ができなくてとても不安だったのですが、本番では臨機応変に自分の言葉で説明することができたので、自分の英語力の成長を感じて嬉しかったです。私たちのグループは8グループ中で3番目の評価だったそうで、同じグループの学生が助けてくれた部分が大きかったので、感謝したいと思います。渡英後まもない頃は、先生はもちろん学生の言うことも理解できず、この先どうなるのかと、とても不安になっていましたが、それも今は懐かしい思い出です。支えてくれた人たちに感謝しつつ、嫌になりつつあった授業にも逃げずに出席し続けた自分を褒めたいと思います。

ゲーテ大学（ドイツ）

5月の報告書でも記載したのですが、ビーチバレーを友人たちと週末に行っています。今月はSummer Challengeという大学で夏学期に開催される、マルチトーナメントに友人に誘われ、参加しました。私は4vs4の男女混合のビーチバレーにエントリーしました。ビーチバレーの他にもサッカーやバスケットボール、テニスなどたくさんの競技でトーナメントが行われていました。私たちのチームは2勝2敗で勝ち進むことはできませんでしたが、現地の学生に誘ってもらわないとなかなかできない経験で、Summer Challengeもとても盛り上がりを見せていたので、楽しんで参加することができました。

Summer Challenge中はドイツ語で行われており、理解できず友人に英語で説明してもらうことが多く、ドイツ語がもっとできるようになっていればと痛感します。ドイツならドイツ語というように、その国の言語をマスターすることが本当に大切だと強く感じていて、ドイツでの生活はあと少しですが、最後まで頑張りたいと思っています。

フライブルク大学（ドイツ）

7月初旬に、同じくフライブルクで留学していた友人たちとバルセロナを旅行しました。昨年の冬学期に仲良くしていたバルセロナ出身の友達と再会し、とても楽しい時間を過ごすことができ、とても嬉しかったです。

スペイン出身の友達の中でもバルセロナ出身の友達が多く、留学中にカタロニアについて教えてもらう機会がたくさんあり、スペインの内情について全く無知であることに気付かされました。ヨーロッパや西洋史は非常に複雑ですが、一つひとつの国や地域をとっても細かな歴史や文化、言語や方言、価値観が膨大に存在しており、友人たちと交流する中でたくさんの学びに溢れています。例えば、一概にスペインと言っても、カタロニアのように複雑な歴史を有し、独自の言語が存在しているという事実、また旅行中に独自の旗を掲げているところを実際に目にし、非常に興味深いと感じました。このように、フライブルクで出会った数々の友人の出身地や地元を訪れ、かけがえのない学びや経験をするできています。留学生活で出会った友人たちはかけがえのない財産であり、生涯大切にしたい存在です。

ヨーロッパ留学の最大の利点は、留学先の国だけでなく、周辺の様々な国を訪れ、多様な文化や歴史に触れることができること、また様々な国の学生が留学・滞在しているため多様性に富んでおり、たくさんの出会いがあることだと思います。特にフライブルクは国際色が強く、色々な国籍やバックグラウンドをもつ人々と交流することができます。学生都市であり学生の自律性が強く、毎日学びがあり、刺激をもらうことができていると感じています。

ルーヴァンカトリック大学サンルイブリュッセル校（ベルギー）

今月は友達との別れの月であり、自分がどれだけ人に恵まれているかを感謝した月でもありました。寮にいる友達みんなとハグをして、手紙を渡して最後の時間を過ごしました。と言いつつ、これが最後ではないよねと確認もしあいました。

この留学期間で、日本文化は遠い欧州でもメディアやインターネット、日本食レストラン、コミックストアなどを通じて人気を博しており、沢山キャプチャーされる機会が多いなと肌で感じましたし、その恩恵によりたくさんの友達が日本に行く時はまた会おうねと言ってくれてすごく嬉しかったです。ヨーロッパに来てから、美術館や自然、建築など文字通り綺麗なものを沢山見て、こんなに素敵な文化があるのだと圧倒されつつも、それらとは全くテイストの違う日本文化の良さにも気づけたのは日本人としても留学生としても嬉しかったです。

寮から出る日が決まっていたので、最後は友達の家に泊めてもらったのですが、そこで食べた最後の朝ごはんであるパンオショコラとアイスコーヒーの味はしばらく忘れられないと思います。当たり前ですがスーパーに焼き立ての安いパンがあって、バゲットを齧る日常とはしばらくお別れかもしれませんが、絶対にまたブリュッセルに戻って来たいなと思います。

ベネチア大学（イタリア）

留学を通して最も心に刻まれたことは、「行動しなければ何も始まらない」ということです。ごく当たり前のことで、私自身は分かっているつもりでした。しかし、最初は異国の地ということもあってか、一步を踏み出すことがとても怖く感じ、時間だけが過ぎていく状態でした。ある時、小さな一步を踏み出してみたところ、環境が大きく変わるのを実感しました。些細なことでも行動することで人との出会いが生まれ、そこから様々なコミュニティに参加するようになり、留学生活を充実させることができました。この出来事を振り返ると、些細な行動が大きな結果を生むことに繋がっていることに気づき、小さなことであってもまずは自ら行動を起こすことの大切さを実感しました。